

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	環境生活総務課	氏名	松島 健一
派遣先 団体名	特定非営利活動法人別府安心ネット		

① 研修の日時と内容

- 7月16日(木) 8:30 ~ 16:00
 - ・美郷町別府地区の現地調査及び町長他関係者と意見交換
 - ・別府安心ネットの業務内容について聞き取り
- 8月19日(水) 8:30 ~ 16:00
 - ・別府安心ネットのホームページ掲載コンテンツの現場取材
 - ・ホームページ編集作業
- 9月20日(日) 8:30 ~ 14:30
 - ・別府地区の高齢者学級「ふれあい学級」の運営補助
- 10月11日(日) 8:30 ~15:00
 - ・別府地区民運動会の運営補助
 - ・ホームページ編集作業
- 11月 4日(水) 8:30 ~15:00
 - ・NPO法人業務に対する住民アンケート調査票作成業務

② 研修の内容

(1) 別府地区の概況について

美郷長別府地区は、大田市に接する美郷町北部に位置し、人口345人・世帯数145世帯、高齢化率約40%の地区である。

別府地区は、「小松地、別府、惣森、志君」の大きく4地区で構成されており、「別府」は公民館、産直市、介護支援事業所、郵便局、商店など、別府地区における中心となっている。

4地区の現状であるが、「志君」地区の高齢化率66.7%と、他の3地区が35~40%であるのに対し高齢化率が突出している。別府安心ネットの樋ヶ理事長の案内で「志君」地区を視察したところ、多くの耕作放棄地や空き家が見られ、在宅一人暮らし高齢者が庭先で一人もくもくと農作業とされている姿が印象的だった。

美郷町では、こうした現状を踏まえ、平成21年度から総務省の地域おこし協力隊と集落支援員制度を導入し、生活弱者の支援など地域課題に解決に取り組んでおり、NPO法人別府安心ネットが協力隊等の受け皿となっている。



(2)NPO法人別府安心ネットの業務内容について

第1期の地域おこし協力隊の任期(～23年度)が終了するにあたり、地域支援活動の継続を図るため、2012年(H24年)にNPO法人別府安心ネットを設立。

法人の主要な業務は、地域住民の「生活支援」と「移動支援」である。

生活支援は、高齢者宅の草刈、農作業補助が中心であり、移動支援は、地域おこし協力隊員や集落支援員など地域住民が運転手となり、交通弱者である住民の病院や福祉施設に通う貴重な交通手段となっている。2013年には、過疎地有償運送・福祉有償運送の許可を取得し、持続可能な仕組みとなった。

現在、別府地区内において「小さな拠点づくり」を進めるため、NPO法人別府安心ネットが地域農産品の6次産業化を視野に入れ、住民の意見を反映させた計画づくりを進めている。

今回の研修では、「移動支援」の現場に立ち合わせていただいた。別府地区は一部集落を除き、大部分がバス路線から外れているため、最寄りのバス停に行くことのできない高齢者が多い。別府安心ネットでは、買い物、通院のための交通手段を必要とする高齢者、障がい者のため、ドアtoドアの輸送サービスを提供している。高齢者の方のお話を伺うと、「安心ネットさんが病院に連れてきて下さるので、とても助かっています。」と何度も頭を下げられた。移動支援サービスは、過疎化が著しい中山間地域に住み続けるための重要なインフラであることを実感した。



(2)NPO法人別府安心ネットの情報発信について

上記のとおり別府安心ネットの活動は、地域住民に不可欠なものとなっているのに加え、NPO法人による福祉有償運送、過疎有償運送事業の取組みは、全国的にも先駆的なものとして注目されていることから、法人への視察者が相次ぐ状況にある。

研修期間中も、樋ヶ理事長は、県議会総務委員会の視察や他県視察に応じておられた。したがって、視察者の便宜のため、また、理事長業務の負担を少しでも軽減する観点からもホームページによる法人情報の発信の充実が求められる状況にあった。

今回の研修では、法人業務について取材した内容や、学んだ内容を、何点か法人ホームページとSNSに掲載することにより情報発信を行った。また、今後のホームページ更新業務について事務所職員の方と意見交換を行った。



(3)法人業務に対する地区住民アンケート調査について

「地域住民が安心して住み続けられ、個人や地域が自立連携し、誇りをもって暮らせること」。これが、NPO法人別府安心ネットの設立目的である。今回の研修においても、NPO法人の移動支援、生活支援などの業務が住民にとってどのように受け止められているか、もっと必要なサービスはないかなどを把握し法人業務に反映するため、理事長から住民アンケート素案を作成するよう依頼された。そこで、法人役員の方と意見交換を実施し、下のような素案を作成した。

(アンケート素案概要(抜粋))

問)NPO法人別府安心ネットの仕事についてお聞きします。

.....

問)地域おこし協力隊についてお聞きします。

.....

問)産直市「やなしおの里」についてお聞きします。

.....

問)生活上のお困りごとについてお聞きします。

.....

③ 研修の感想

地域内に人がたくさんいた時代は、自然に近所どうしで支え合う共助社会があり、そのことによって中山間地域での暮らしは成り立っていた。しかし、過疎化・高齢化が著しい別府地区の一部地区などでは、人が安心して住み続けるための克服すべき課題があまりにも大きなものとなっている。

今回の研修では、こうした過酷な地域での暮らしを誰が支えるのかを考えるきっかけとなった。一つは行政機関であろうが、今回の研修先のような地域住民自らによる自治会範囲を超えた支え合いの活動が必要になってくるのではないだろうか。

別府安心ネットは、住民組織からNPO法人格を持つこと組織的な基盤を整え、移動支援などの地域を支える活動を継続的に実施するだけでなく、地域おこし協力隊など地域づくりに取り組む人たちをネットワーク化し、アンケート調査などにより町と住民をつなぐ架け橋となっている。

県の総合戦略の「地域を担うひとづくり」の項目にも、地域におけるさまざまな課題の解決に取り組むNPOなどの活動の推進を位置づけているが、それを具体化したモデルが別府安心ネットであると感じた。

④ その他特記事項

美郷町では、地方創生事業として、今後町内における「小さな拠点づくり」を進める計画であり、別府地区における拠点づくりも進める予定である。そこで、現在、別府安心ネットが中心となり、地区内の自治会連合会と調整を図りながら、住民の意向を反映させた計画案を策定し、町へ提言する予定である。

「小さな拠点づくり」などのような島根全体を取り巻く政策課題を現場で直接感じるができるのは、県職員としてもとても大きな意味がある。ただし、研修期間が限られていることから一定の成果が得られるまで関わるができない。ケースバイケースであるが、1年程度の継続的な研修の余地があればよいと思う。